

変則マルチアンプシステム(8)  
—FAL C90EXW の置き換え—

1. 始めに

前報(5)と(6)と(7)では、JBL4350A の 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域をそれぞれ EMI DLS259、Goodman の AXIOM80 と TELEFUNKEN L61 に置き換えてみましたが、今回は FAL C90EXW に置き換えてみます。

2. ミッドバスからツイーター領域の置き換えの試聴方法

JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファーとスーパーツイーターをそのまま使って、250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域は現在の 45pp アンプで FAL C90EXW を駆動します。従って、FAL C90EXW は 250Hz~1.25KHz の帯域のみを使用することになります。

入力信号のルートとしては現在の標準となっている次のルートを使用します。

EMT981 (44.1KHz) /BZT-9000→ CCV-5 (96KHz) →SWD-DA10 (192KHz)  
→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD

ここで、EMT981 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを、CCV-5 には 96KHz のクロックを、SWD-DA10 には 192KHz のクロックを供給します。また DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを供給します。

3. ミッドバスからツイーター領域の置き換えの試聴結果

今回は FAL C90EXW を用いて JBL4350A のマルチアンプシステムの 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域を受け持たせてみたわけで、前報(4)では FAL C90EXW のアンプは、しなの音蔵 300B シングルでしたが、今回は JBL4350A のマルチアンプシステムの 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域を受け持つ 45pp アンプをそのまま使用しています。

こういった変則システムは組み合わせるスピーカーの音色の違いなどで違和感が残るのが通例ですが、前報(4)と同様に意外に馴染がいいというのが第一印象です。

FAL C90EXW の側からの変化を述べますと、低音の量感や沈みこみが若干違うことは前報(4)と同様です。高域に関しては、もともとハイルドライバーに村田製作所のセラミックツイーター ES-103A を載せていましたので、良くなったとは言えません。全般的には、FAL C90EXW の持ち味が後退し、反応の鈍さが耳につきます。そこでアンプを 45pp から、しなの音蔵 300B シングルに替えてみたところ、本来の 3 極管シングルの反応の良さが戻ってきました。

**JBL4350A** のマルチアンプシステムの側からの変化を述べますと、**JBL4350A** の個性が消え去り、**FAL C90EXW** 中心の音になってしまったと言えます。

#### 4. まとめ

もともと **FAL C90EXW** としなの音蔵 **300B** シングルの組合わせの完成度が高いために敢えて 3 チャンネルのマルチアンプシステムに換装する意味は少なかったと言えます。やるとすれば、**JBL4350A** のダブルウーファーをもっと低いところで切ってスーパーウーファー的に付加することでしょうか。

以上